

京都研修の先に視えたもの

高知工科大学 マネジメント学科 2年 村上 麗

私は今回の研修を通して人の夢、自分の夢、絆、熱意、仲間、感動など様々な大切なものと出会いました。その中で一番私にとって大きかったものは「つながり」です。人は一人では生きることにはできません。その人が社会という場所に生まれた限り誰一人としてそれは避けようもない事実です。しかしそれは裏を返せば、人は誰かと共にいることで「生きられる」とも捉えることができます。今年は台風や地震による津波、そして多くの人の涙など水に嫌われた年でした。水は人を生かすものでもあります。しかしそれと同時に人を死においやるものでもあると改めて私自身も気づかされました。

当たり前だと思っていたものが当たり前ではない。それをいい意味としてとらえるならば「気づき」ということになります。多くの人が本来であれば当たり前ではないことに対して当たり前だと感じ、なんの敬意も払わずに生きています。私自身もその一人です。ご飯が毎日食べられること、屋根のある家で眠れること、着る服があること、電気が通っていること、水道を捻れば綺麗な水が流れることなどそれはどこかで努力している人がいるからこそ成り立つものであるのに、そのような人たちに何も感じずに生きているのが今の世の中の現状です。あまり比べるものではありませんが、日本は世界から見ても「平和」な国です。しかしその「平和」のせいで日本の危機に気付けずにいる人が多くいます。

正直日本は、今、政府という名の泥船に乗っていると私は思います。しかし同じように考えを持つ人は若者を中心に多くいるというのも決して避けようのない事実です。実際に選挙の投票率は低く、最近起きた沖縄防衛局長の発言に対する県民の反応は「怒り」ではなく「呆れ」という反応がほとんどでした。マスコミが意図的にそのように伝えようとしたのかもしれませんが、少なくともそのような反応を見せた国民がいたのは事実です。これは非常に危険な状況であると思います。なぜなら国民が自分たちの生活を変え得る政治に対して無関心になりつつあるからです。それも特にこれからの日本を背負っていかねばならない若者がそのような反応を見せているからです。

それではそのような中で私個人が一体なにができるのか。きっと何もできません。一人ができることには限界があるからです。更に世間もまだ知らず、知識もそれほどない私が一所懸命動いたとしても世の中はほとんど変えることはできません。私自身もそれは重々承知しています。しかし私はそれと同時に人は「つながり」を持つことで大きな力を得られることも知っています。一人では立ち向かえることもできなかったものに対して立ち向かえる術を持つことができることを私は知っています。ただその力は一歩使い方を誤ると最悪の結果を生みます。数の力は大きく、それが強い結束力で固められるほど危険なものになり得るからです。そのために私たちは「つながり」を作ると同時

に、今、本当に世の中に何が求められているのかを考える必要があります。それは最初だけ考えていけばいいものではありません。時代は常に動いています。その時代にはその時代に求められているものがあるからです。そしてその時代に求められているものが次の世代にも求められているような状況は避けるべきです。

それでは今世の中には何が求められているのか。それは私自身も断言できるものではありません。しかし一つだけ確実に言えるものがあります。それは「より良い日本」であることです。これは前文にも述べた「当たり前」のことです。しかし特に政府を中心にこの「当たり前」のことを薄れている方が多くいると思います。なぜならばいくら異なる正反対の意見を持っていたとしても、この気持ちと同じであれば互いに手を取り合って「より良い日本」を作るために奮闘し合えるからです。しかし実際には野次を飛ばし合い、相手のダメ部分ばかり指摘し、そのための改善策さえただただ言葉として発するだけです。今回の京都研修時でイメージすることの大切さを述べられた方がいらっしゃいました。私も確かにその通りだと思います。イメージを描けないことを実現することはほとんど不可能なものです。たとえ実現できたとしてもそれは脆く曖昧で簡単に崩れ去ってしまいます。何が良いイメージで何が悪いイメージであるのか、それは人によってイメージは異なるためそう簡単に実現できるものではありません。現に今のこの状況で満足している方も多くいると思います。しかし人は歩みを止め、最善の状態であることをしなくなり、その状態に満足してしまったときに未来の光を失うこととなります。なぜなら現状に満足せずに、満足したとしてもそれを永続できるように奮闘することをしなければどんどん廃れていってしまうためです。これは国だけでなく、地域にも、物にも、人にも言えることです。

私は日本という国が大好きです。「和」を基調とし、互いを尊重し、助け合うことを真っ先に考え、相手を本当に思いやれる人が数多くいるこの国が大好きです。その国を私は廃れさせたくありません。ただ未来は誰にもわかりません。これから先私を変えようとしたことも、未来から見ると変えてはならないことである可能性も十分にあるからです。そのために私はまず自分の住んでいる地域から目を向けていきます。自分が住んでいる地域がどのような状況にあるか、そしてその地域の方々が何を求めているかを調べ、分析し、そしてそれを実現していきます。そうやって各地域が少しでも良くなっていくことで周りの大きな地域がよくなり、そしてその大きな地域がもっともっと大きくなることで最終的には日本全体が良くなるような世の中を私はイメージしています。小さなものも変えられない人が大きなものを変えられるはずがありません。そしてその小さなものの先にある大きなものの実現のために、私は色々なものを見て、聞いて、触れて、感じてもっともっと経験値を増やしていきたいです。そしてその「より良い日本」を一緒につくっていけるような「仲間」を見つけていきたいと強く感じています。

京都研修レポート

高知工科大学マネジメント学部 2 回

江川拓実

Ryoma Japan Project ~ 想いを言葉に、言葉を行動に ~

2011.11.23(水・祝)

同志社大学 今出川高地 室町キャンパス

寒梅館 ハーディーホール

第一部 澤田 秀雄氏(株式会社エイチ・アイ・エス 代表取締役会長)による基調講演

1. ハウステンボスの立て直し

ハウステンボスと東京ディズニーランドを比較して考える

ハウステンボスは商圈が小さく、規模は大きいいため経費がかかり、立地が長崎県と中心地から首都圏から遠いため、旅費がかかりリピーター率も低い。

その時の状態

18 年間赤字続きで、従業員のボーナスもなく店は閉まっている。オフィスの投資していない。スタッフの平均年齢は 40 歳前後で、負け癖がついているが、良い人材が多く色々な挑戦をおこなえる・

なぜ依頼を受けたのか

澤田氏が三回頼まれると承諾してしまう性格だそうです。

何億円も賭けたモノを無くすのはもったいなく、日本の観光や地域の雇用に影響が出てしまうため。そのお役に立てるのなら。

現状

今年は何億円も黒字。お客さまのことを思ってやっていくことが大切である。

長崎と上海を結ぶ航路を開港し、交通の便をよくすることで、観光客の増加と国際観光都市へとする計画を実行中である。

2. 今大切なこと

大きな夢、志を持つこと

アメリカも欧米も揺らぎ日本も景気が良くない今。若者が考え大きな変化を起こさなければならぬ。考えているだけではだめ、一歩でも行動することで大きく 5 年後 10 年後をかけていくことができる。だから必要なのは、できるかできないかに関係なしに大きな夢、志を持つことである。日本のためでも、将来の仕事でもいい、まずは夢を描けなければいけない。それは、デザインのない建物は建たないのと同じである。描けない夢はできないが、描ければたいがいの事は成し遂げられる。

気持ちをもち継続すること

新しいことにチャレンジすれば、もちろん失敗や壁にぶつかることもある。だが、失敗してもあきらめないことが大切である。失敗した時こそ嘘でもいいから明るくなる。

「失意泰然」さすれば、自然と道は開けてくる。

運を大切にしていく

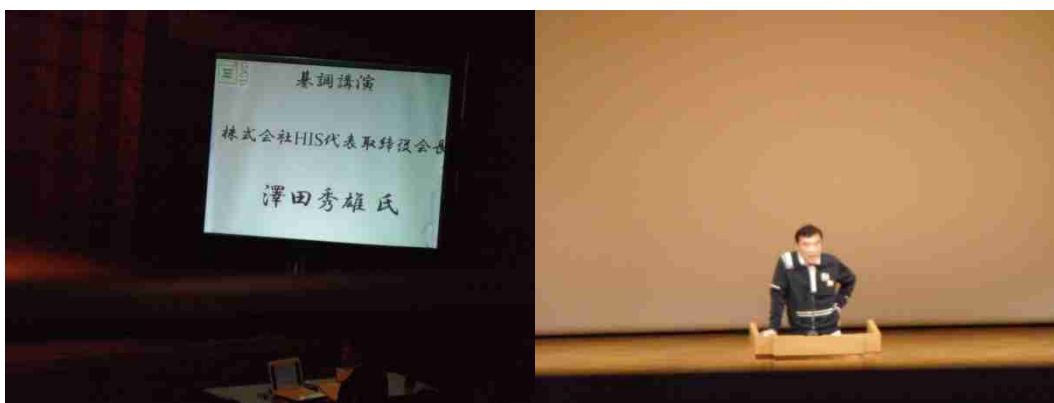
どんな人にも運の良い時と悪い時がある。立派な人、会社は成功するし、人間性がよいから、運の良い人、良い会社とともに動く。そうすれば、自分も運が良くなり商談もまとまる。夢や目標も達成しやすくなるのである。

3. これから

まずは、小さな目標を立て、次にそれより少し大きな目標を続けてたて成功させる。その繰り返しである。例えば、3か月ぐらい目標を立て、次に半年から一年ぐらいの目標を立てるといった具合である。

そして、新しい時代にチャレンジし、変化に対応していく事である。チャレンジしなければ、成功することはない。

変化に対応するには若さが必要であるから、失敗をおそれずに、今チャレンジしてほしい。



第二部 「平成の龍馬達×ソーシャルプロデューサーによる日本洗濯対談！」(パネルディスカッション)

"日本の洗い方"をテーマに、現代の日本の問題点を洗い出し、
学生×社会人で解決策についてパネルディスカッション

[社会人ゲスト]

澤田 秀雄 氏

船川 治郎 氏(株式会社レイズアイ取締役)

片山 美菜子 氏 (株式会社ナチュラルリンク 代表取締役)

[学生ゲスト]

川 恵実 氏 (同志社大学4回生)

山田 安友 氏 (立命館大学4回生、初代 moco 代表)

堀田 実花 氏 (宮城学院女子大学3回生)

(以下敬称略)

1. 3.11 について

- 堀田 ・震災を経験した今の方が人との関わりが増えたと感じる。例えば、比較的被害が少なかった山間地域の方が、海辺の方をサポートする。近所の中学、高校生がお年をめした方の家に行き手助けを行う。
- ・このような経験から、人との関わりが薄くなった世の中だから自殺者が多いのでは？
 - ・目標を決める人が増加した。被災者は今ではなく、未来へ生きている。
- 山田 ・僕らなりにできる事をするのが大切。被災地から距離があり、宿泊場所や移動手段などの確保も難しいので、募金活動をする事にした。セミナーやイベントを企画しその場で、募金を集めた。
- 澤田 ・日本人は世界では既に5、6番目である。アジアの人が世界に影響を与える時代が来る。なので、アジアの国々と助け合っていかなければならない。(アジア経営学者協会に参加している)
- ・経営学の知識を持った人が国政につき、国家経営やバックアップをするべきである。
 - ・シンガポールを見習うべき。淡路島ほどの面積しかなく、資源も少ないが優秀な人材を集めて国家経営を行っているため成長している。

2. 人材育成

- 片山 ・学生時代はぶー太郎で、ただ漠然と起業したいと考えていた。そして社会に出てから、仕事をしたいけれど、結婚や子育てなどで悩む働く女性を活気づけられたら、女性も皆もHappyになるだろうと考えた。女性自身が会社の中で頑張り、君なら職場復帰してほしいといわれるような存在になることも重要であると。
- 船川 ・小学生の時から戦争をなくしたいと考えていた。中学2年生の時に、戦争について泣いてみているだけでは、何もしなくなったら怖いと気づき政治家になろうと考えた。そのために、最初は経営者を目指して、哲学などを学んだ。
- ・インターネットの普及により、ヒエラルキーが崩壊。金銭的に比較的。恵まれていない人も活躍できるようになった。日本で初めて検索エンジンを作ったのが学生と知り驚く。
 - ・学生の育成に力を入れる。知識を蓄える場は多いが、実際に経験する場が少ないので、インターンシップなどの紹介などをサポートしている。

元官房長官 福山氏

- ・この仕事をやらないかと言われたときには絶対にYES！という。できるかどうかは後で考える。
- ・常に笑顔でいる。人の悪口や中傷はしない。ポジティブなことを言う人には人が集まる。
- ・お金がなく選挙時は、物もらい事務所と言われたが、心はしっかりとしてい

る。政治家の中には本当に国の事を考えて行動している人物もいるので、だめだと決めつけて言うのはいけない。東北の震災時に、毎日数千という死体があがる報告を聞く無力感。誰かがやるは誰もやらない。いろんな歪みがあるのが東京だが、だからこそ選択が重要である。どうか皆さんも決めることの重要性を知り、決める仲間になりましょう。

ユニバーサルピース 浜村氏

- ・三国志好きのところから、戦争がたくさんあるが、なぜなくなるのかと疑問を抱く。
- ・ユーラシア大陸を猿岩石と逆向きに横断中、貧しい国の子どもが「明日起きたら日本だったらいいのに」と言う発言を聞いて、日本人々は満員電車で暗い表情をしているのに、もっと幸せを感じなければと思う。
- ・日本は食べ物を世界から輸入しているにも関わらず、他国への援助の4倍を捨てている。

澤田 ・4年半の間世界を見てきて、見たことない自然など色々なものを見て、視野が広がる。そこで、日本での当たり前が、当たり前でないことに気づいた。

堀田 ・カンボジアに学校を立てる活動を行っている。識字教育ができてないがために、低賃金労働や人身売買が横行している現状を改善するため。ゴミ山にいた子どもが学校に行きたいと言う。自分が当たり前と思っていることが当たり前じゃないという衝撃を感じる。

澤田 ・日本は文化も技術もあるから、自信を持つことが大切。海外に行くことで、日本の良さも悪さも改めて知ることができた。

3. ディスカッションを通して

山田 ・色々な学生と出会う中で、色々な学生がいる事を知った。学校で寝たりしている人に moco を読んでもらって、こういう学生生活もあるということを知ってもらいたい。僕らの世代を引っ張っていきいたいし、そういう人に皆になってほしい。

堀田 ・いろんな人がいると改めて感じた。様々な人に出会い色々な経験を積んで、大人になった時に、社会の雰囲気づくりを手伝える大人になりたい。

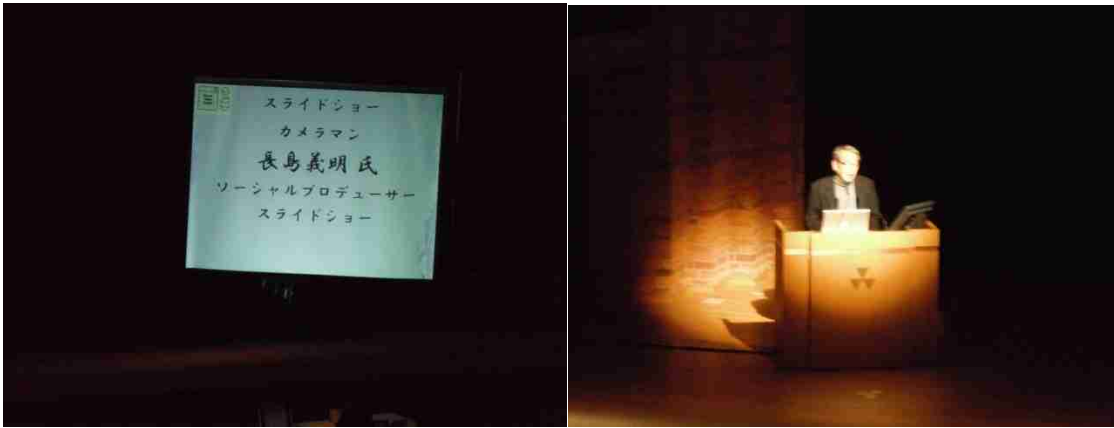
川 ・幸せ探しの旅の途中で出会う人に「貴方にとって幸せとはなんですか？」と聞いて回った。インドの死を待つ家で、一週間体を動かすこともできない、死期の迫った老婆のお世話をさせてもらった時に、その質問をできなかったが、最終日に老婆に「Today is my last day.(今日が最終日です。)」と伝える。すると老婆に「I hope your happy life.(幸せな人生を願うわ)」と泣きながら言われたときに、氏を目前にしても他人の幸せを祈ることができる。記憶の大切さを知った。映像として残せるような活動をする。

- 片山 ・活動を続けていけば、女性と言えばナチュラルリンクと言われるようになりたい。片山さんみたいな生活もいいなと、そういう方々の希望となれるようになりたい。
- 船川 ・折角このような場で、モチベーションを上げられたのに、忘れるのはもったいない。だから、今これから何をすればいいか、決めてほしい。いつか誰かがではなく、自分がやる。一人じゃ変わらない。人とつながるためには自分から、行動し繋がり続けるようにする必要がある。
- 澤田 ・今日来て本当に良かった。この小さな変化が大きな変化へときっと繋がる。若い人の一番が大きな変化につながる。老人も経験があるので、大切にしなければならない。
- 司会 ・社会が何をしてくれるかではなく、自分が何をするかである。



第三部長島氏による写真上映

写真をスライドで移しながら、関連のお話が聞くことができ、実際に様々な国々を回ったような体験ができました。



第四部 ウルフルケイスケ氏の演奏によるエンディング

会場が一体となって歌を歌うことで、とても盛り上がり、まいどハッピーと言う歌がみんなをHappyにできた瞬間を感じられました。



全体を振り返って

今回この研修をさせて頂き、とても幸運だったと感じています。バイタリティに溢れ、モチベーションの高い学生の方々に出会えたこと。社会に出て日本を引っ張っていこうと奮闘している社会人の方々のお話を聞きできたこと。本当に良い経験となりました。中でも、自分と同じ大学生の方が、社会的に意義のある活動をしていらっしゃると言うこ

と知れたこと。今回のイベントの企画、運営も同志社大学の学生さんが行っていたことを知り感化されました。私は、今「四国青 NGO HOPE」と言う団体で、四国での学生間の繋がりを強くすること目的とした活動をしているのですが、竜馬プロジェクトでも、人の繋がりを重要視していたので、共感するところがありました。さらに、今回のイベントを通して、同志社大学の学生の方と色々お話できましたので、この繋がりも大切にしていきたいと感じました。

全体を通して感じましたのは、自分もしっかりと将来に向け、日本を先頭に立ってリードしていけるような人になれるよう行動していかなければならないということです。今回のキーワードとなっていた、「選択と洗濯」をこれからの生活にどのように生かしていけるのか、日々考えながら生活していきたいです。そして、今回えたモノを生かして、高知の地でどのようなことができるかを考え、行動を起こしていきたいと考えます。

Ryoma Japan Project から学んだこと

高知工科大学マネジメント学部 2年 戸田沙弥

「若者よ、平成の坂本龍馬たれ」というテーマのもと始まった、今回のイベント。私は、なんとなく違う大学の方たちと交流することで、交友関係を広げていければ、という思いで今回のイベントへ参加しました。しかし、気づけば H.I.S 代表取締役澤田会長の話に没頭しメモを必死に取っていたり、その後のディスカッションは、まるで自分も参加しているかのように、一緒になってテーマについて考えている私に気づきました。そして今まで自分は何をしていたのだろう。大学に入学して早2年、なにか成長したのだろうか。自身のちっぽけさに気づかされました。坂本龍馬のように、国を変えていくほどの大きなことはできないにしろ、自分から何か動き出す必要性を感じました。今までも、少なからず何かしら行動しなければという思いはありましたが、自分が何をしたいのか。何から始めればいいのか。そう考えていつも何もしないままでした。「困難だからこそ、チャレンジしたくなった」「できなくてもいい、大きな夢を持て」この澤田会長のお言葉を胸に、自分を真から見つめ直し、新たな道を切り開いていきたいと強く思いました。

その後行われたイベント参加者と交流を深めることができる懇親会の場。積極的に他の人たちに声を掛けていく周りとは比べ、私は誰にも声をかけることができず、周りに圧倒されているばかりでした。運良く話しかけていただいた方がいたので、なんとか交流を深めることが出来ましたが、それがなければきっと誰とも交友関係を広げることができなかったように思います。この懇親会で討論会のパネラーを務めた山田さんとお話することが出来たのですが、できることはとりあえずなんでもやってみればいとお話されていました。その言葉から、山田さんの教養の深さや行動力、交友関係の広さなどさまざまなことを読み取ることが出来ました。「自分が何をしたいか」を考える以前になんにでもチャレンジしてみることが重要なんだと気づくと共に、自分が本当にやりたいことがなんなのかが少しですが見えてきたように思います。この懇親会を通して、同志社大学をはじめとする、他大学の学生の方たちの行動力、志の高さに触れることが出来ました。

この Ryoma Japan Project で学び、考えたことをこれからの生活に生かせるかどうか、本当に重要なことだと思います。京都研修に行って、本当にたくさんの刺激を受け、自分を変えていこうと本気で思いました。まずは自分を“洗濯”していくことから始めようと思っています。

最後にこの場を借りて、貴重な経験をさせていただききっかけとなった依光さん、Ryoma Japan Project でお世話になった同志社大学の皆さんにお礼を申し上げます。

研修を終えて

高知工科大学 マネジメント学部 高山莉菜

11月23日、私たちは京都で行われた Ryoma Japan Project に参加してきました。このプロジェクトは幕末の時代に劇的に日本を変えた坂本竜馬に代わる人材が現在の日本にも必要だということで、様々な分野で活躍する社会人・学生の方々がゲストとして講演・討論をしてくださるというものでした。

はじめは株式会社 HIS 代表取締役会長である澤田さんの講演を聞きました。澤田さんが最初にお話しされたのはハウステンボスの再建を依頼された時の話です。澤田さんが再建を依頼された当時のハウステンボスは18年間赤字が続いており、商圏が小さい、築20年でお金もかかる、アクセスの問題、場所が広いため経費もその分かかる、等いくつもの問題を抱えていました。そんな状況の中で澤田さんがこの依頼を引き受けようと思った理由は3つあります。一つ目は何度も断ったにもかかわらず3回も再建を頼まれたということです。澤田さんは自分は3回頼まれると断れない性格だとおっしゃっていて、そのほかにもハウステンボス側の熱意にも心打たれたのではないかと感じました。二つ目は何十億もかけて作ったものを潰すということは日本の観光業にも大きな影響を及ぼすと考えたからです。また、自分が努力することによって衰退している地域のためになにか力になれるかもしれないと思ったからだそうです。そして最後の3つ目は自分の中の「チャレンジ精神」だということでした。再建するのはかなり難しい状況で、「よし、やってみよう」と決断するのはとても勇気があることだけど、チャレンジしなければ今の状況をかえることはできないし、何よりこの仕事を引き受けることによって自分を大きく成長させることができるということが澤田さんの背中を押したのだとおっしゃっていました。

ここで私は、今の若者に足りないものというのはこういった一歩踏み出す勇気なのではないかと考えました。澤田さんがおっしゃっていたように、今世界は大きく変わろうとしています。そんなこれからの時代、大きな夢と志を持った若者たちが先陣を切って活躍していくことこそがこれからの日本を支えていくのではないかと思います。私たちがなかなか一歩踏み出すことができないのは、失敗することが怖いからだと思います。でも「誰だって失敗はするし、上手いかないこともたくさんある。それにチャレンジしないと何も変わらないし、自分自身を成長させることもできない」という澤田さんの言葉にとっても心打たれました。この大学で今この時期しかできないことはたくさんあるのに、何もチャレンジしないまま時間を過ごしてしまうのはもったいないと思ったし、自分もこれから残りの大学生活でいろんなことにチャレンジしていきたいと感じました。

澤田さんの講演の後、社会人パネラー3人、学生パネラー3人、ゲストのみなさんによるディスカッションが行われました。ディスカッションは2時間弱行われましたが、本当にあっという間で多くの刺激を受けることができました。ここではすべてを紹介することはできませんが、心に残った言葉はたくさんありました。気が付いたときに、気が付いたことを、気が付いた人が実行することを習慣化すること、誰かがやってくれるだろうではなくて今自分がやらないと！という考え方を教えてく

ださった秋元さんの言葉。頭で考えるのと実際にやるのでは全然違う、だからこそいろんな経験をしていかなければいけないんだということを感じかせてくれた澤田さんの言葉。私とそんなに年齢は変わらないのにいま自分がやりたいこと、やらなければならないこと、将来の夢や目標がはっきりわかっていて、自ら考え自ら学ぶことを忘れずに活動されている川さん、山田さん、堀田さんの熱い言葉。そのほかにもパネラーのみなさんから本当に熱いメッセージを受け取りました。皆さんの「自分を、日本を、世界を、未来を変えたい」という熱い思いを聞いて、自分の生きる未来は自分で作っていくものだと思っただけで、いま自分がやりたいことを早く見つけたいということを強く感じました。

今回の研修を通して一番感じたことは、自分は大学に入ってから2年間を無駄に過ごしてきたことへの後悔でした。このプロジェクトに参加して様々な分野で活躍する方たちの思いや言葉に触れることで、本当に自分は頑張りが足りないしもっともっと頑張っていかなければならないと思いました。今回の研修においてお世話になった同志社のみなさん、この研修と一緒に行動と誘ってくれた川島さん、戸田さん、そして何よりも今回多くの支援してくださった依光さんに本当に感謝しています。ありがとうございました。

Ryoma Japan Project で考えたこと

高知工科大学マネジメント学部 2年 川島友李亜

私は今回の「Ryoma Japan Project ソーシャルプロデューサー大討論会」に出席し最も大切だと感じた言葉は「夢を持つこと」です。HIS 代表取締役会長の澤田秀雄氏は時代に合っていてなおかつ自分に合った大きな夢、志を持つことが大切だと述べられました。夢を持っている人は、夢の達成のために自分を向上させることによって新たな自分に成長することができます。どのような機会があるか、どの才能を伸ばすか、それらすべてが夢の実現のためのステップになるのです。また、澤田氏は夢は大きければ大きいほど良いと述べられました。知識が少ないと世界が知識の及ぶ範囲に限られているのと同様に自分自身の夢が小さいと目の前のことしか取り組むことができないと思います。夢が大きければ大きいほど自分の力の伸びしろも大きいのではないのでしょうか。また、夢を持つことで、将来の可能性を思い描き、何かしようというやる気が起こると思います。今の時代、この何かしようというやる気が不足していると感じます。それは、失敗を恐れる気持ちが生んだのだと思います。現代社会においては失敗をすることが許されない場合が多くあります。しかし、失敗から学ぶ力、失敗を恐れず挑戦する力こそが成長の原動力となると思います。澤田氏は長崎のハウステンボスの再建に取り組み、わずか1年で黒字10億円を実現しました。しかし、18年間赤字を抱えていたハウステンボスのこの案件は問題と失敗の連続だったそうです。澤田氏はこの案件を引き受けた理由の一つに危険な案件だからこそチャレンジしたかった、挑戦して失敗するよりも何もしないことの方が悪いと思ったと述べられました。先のことを考えるばかりでなく実際に行動に移した良い例だと思いました。

澤田氏のお話を聞き私は自分がやりたいこと、夢、目標というものに、今思うと翻弄されているように思いました。やりたいことを探し、それにまっしぐらに進む。そのことを今までは良いことだと考えていましたが、今の時代に必要とされていなければ意味がないのだと気づきました。私がいくらやりたいと思っても誰かが必要としてくれなければただの自己満足で終わってしまうのです。社会や組織が求めていることと自分がやりたいことがリンクしていなければい

けないのだと思いました。また、自分の能力に見合わなくてもいいけません。やりたいこと、できること、必要とされていることの全てを満たすようなチャレンジをすることが重要なのだと感じました。そして、必要とされていることがやりがいに変えられるように自分自身が行動していく必要があると思いました。



社会人パネラーと学生パネラーによるディスカッションでは、まず「日本は3.11以降何が変わったのか」についての討論がありました。実際に被災地に赴いた宮城学院女子大学の堀田実花氏は震災以後、沿岸部の被害が大きかったので、山間部に住む人々が支援にやってきた。多くの人々が互いに助け合い、人とのつながりが大きくなった。また、生きる活力、生きている間に夢や目標を持つ人が増えたと述べられました。私は堀田氏が一言一言にそのときの情景を思い浮かべているように思えました。私は実際に被災地に赴むかなければわからないことがあると思いました。私たちはニュースやインターネット等の何らかの情報の媒体を通じてしか被災地の現状を知ることができませんが、自分に何ができるのか考えたとき復興のための募金や、今も尚、大災害と真正面から戦い続けている人々に励ましのメッセージを送ることで少しでも被災地の力にな

りたいと思いました。立命館大学の山田安友氏の発言にもあったように多くの人が被災地のために自分達にできることをしています。未曾有の大災害からすでに10カ月近くが経ちます。復旧、復興への道のりは、いまだに険しいことと思います。原発事故の収束もまだ先です。しかし、希望の光が見え、この震災を教訓に新たに一步前へ踏み出せると思います。

次に株式会社ナチュラルリンク代表取締役片山美菜子氏の女性の社会進出についてのお話がありました。片山氏は企業の女性の人材活用に特化した人材教育研修会社ナチュラルリンクを設立し、仕事をしながら家計を持てるような仕組みが今の社会に必要と考え組織のチームでカバーし合える組織の関係性構築を目指しておられます。日本には未だに働くのは男性で女性は家庭にいる、もしくは家計補助のために働くという意識が根強く残っています。また、女性は結婚出産によって仕事の中断が生じやすいため非世紀雇用の対象になりやすく、再就職も困難な現実があります。しかし、私は気配りや心配り、勤勉さ、繊細さなど女性ならではの強みを活かすことにより企業はより成長できると思います。日本における女性の管理職の割合は10%程度と増加傾向にはあるものの、ほとんどのヨーロッパ諸国では管理職として仕事をしている女性の割合は30%以上、アメリカでは40%を超えている現状を見ると日本は極めて低い水準にあることがわかります。私は日本政府と日本企業が相互に取り組み、ジェンダーギャップをなくす必要があると考えます。

次に一人の学生の質問を取り上げてみたいと思います。その学生は「人に変革を迫るにはどうすればよいか」という主旨の質問をしました。それに対して、株式会社レイズアイ取締役船川治郎氏は人を変えるにはまず自分が変わる必要があると述べられました。確かに自分自身の行動、考えを変えるのに生半可な気持ちでは続きません、ましてやこれを他人に要求するとなると問題の難易度は数段に高くなります。そのためにも、コミュニケーションの機会を十分にとり、相手の不安や抵抗感を取り除くように接する必要があると思いました。

今回の「Ryoma Japan Project ソーシャルプロデューサー大討論会」を終えて、高知でもこのような若者のための企画を立ち上げたいと強く思いました。今の自分たちになにができるのか、何が求められているのかを今一度考え、龍馬のように大きな夢と志を持って行動していくことが必要だと感じました。今回の企画はコンテンツの充実生がとても素晴らしかったと思います。貴重な経験をさせていただきました。



2011.11.26

「京都研修で学んだこと」

高知工科大学マネジメント学部 2年 森本直人

今回のこの研修で私が学んだことは「チャレンジすることの大切さ」です。「このままでは日本は、ダメだ！だから自分たちが何とかしよう！！変えていこう！！」という熱い心と強い信念を持っているんなことにチャレンジしている方々が大勢いらしゃって、自分の考えていることの小ささに恥ずかしさを覚えると同時に、その方々のお話を聞いて「自分も社会のためになることをしていこう！そして、そのために自分に何ができるのか。」ということを考えさせられるようになりました。

中でも、株式会社 HIS 代表取締役会長 澤田秀雄さんのお話が大変心に残りました。澤田さんは、「ハウステンボス再建」という最も難しいといわれた案件を扱った方で、見事、ハウステンボスを赤字から黒字へと立て直されました。そのとき澤田さんがやられたこととして百万本のバラを植えるなど人が感動すること、自分がやっていてワクワクして楽しいことをなされたそうです。また、もともと澤田さんご自身が旅行好きで HIS という旅行会社を起業なされたそうです。このことから私は自分が楽しいと思うこと、自分がワクワクすることを、ほかの人たちにうまく伝えることができたとき感動が生まれ、組織が活性化していくのだと感じました。逆に自分が楽しいと感じない、感動しないものを伝えようとしても、当然、ほかの人もし楽しくないし、感動しないと思います。だから、他人を楽しませる、感動させる前に、まず、第一に自分が一番楽しむ、感動することが大切であると思いました。そうすれば結果として、澤田さんのようにハウステンボス再建を成し遂げることや HIS を一流有名企業にすることになるのだと考えます。

さらに、澤田さんは、「大きな夢、大志をもつ」ことが大切であるとおっしゃっていました。そして、その大きな夢、大志を実現させるためには、コツがあるそうです。まずは、なるべく夢を詳しく具体化することです。次に、モチベーションを維持するために、小さな目標、たとえば、6 か月で することだそうです。そして、時代に対応した新たなチャレンジをすることが大切だそうです。また、大きな夢に挑戦するには、失敗や挫折がつきものです。そんな時、澤田さんは「失敗した時こそ元気に行動する」ことと運（運のいい組織、運のいい人）を大切にすることで失敗・問題に対処してきたそうです。私も失敗すると元気をなくしがちですが、澤田さんのお話を聞いて、こういったことを実践していけば道が開けていくと思いました。

最後に、この研修を通して澤田さんをはじめ、今の閉塞感漂う日本を変えていこうと熱意を持ってさまざまな取り組みをしている方々のお話をお聞きして「誰かがよくしてくれるだろう」という考えから「自分がよくするんだ！」という考えへ変わりました。私は、これから今この社会に何ができるかを考え、それを将来、実行に移すため今回のような素

晴らしい研修にもっと参加し、自分を磨き続きたいです。

